



浜松ユネスコ協会

# UNESCO HAMAMATSU

## ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

No.181  
2023.3.15

発行：浜松ユネスコ協会  
 発行人：会長 小島暉壯  
 TEL (053) 463-0458  
 FAX (053) 463-0458  
 編集(広報委員会)阿部行俊

## 第13回「私のまちのたからもの」展

令和5年1月11日(水)～16日(月) 於：遠鉄百貨店ギャラリー・ロゼ



## 100年後まで残したい 小中学生が見つけた自然・文化・伝統

浜松市長賞 「浜名用水取水口跡」 天竜区二俣

浜松市立八幡中学校3年 笹川果音さん

今から80年近く前、天竜川から水を引いて田畑を潤すために「浜名用水」が作られました。

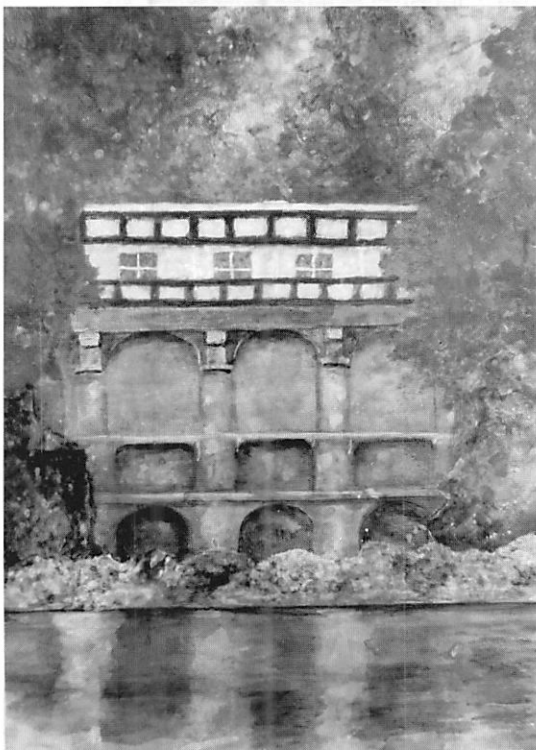
この取水口の上には「金原明善」の銅像が置かれています。金原明喜は、天竜川の洪水を防ぐために堤防を築いたり、上流に木を植えたりしました。

また、天竜川から水を引き、多くの田畑を潤すことも考えました。しかし、当時は「技術的な問題」で実現できませんでした。その後、明善の思いを引き継いだ人たちによって実現したのが、この「浜名用水」です。

今回、この取水口を描いたことで、この建物が地域のために尽くした多くの人たちの思いが込められているものであることを知りました。「私たちのまちの歴史」を一つ知ることができたと思います。

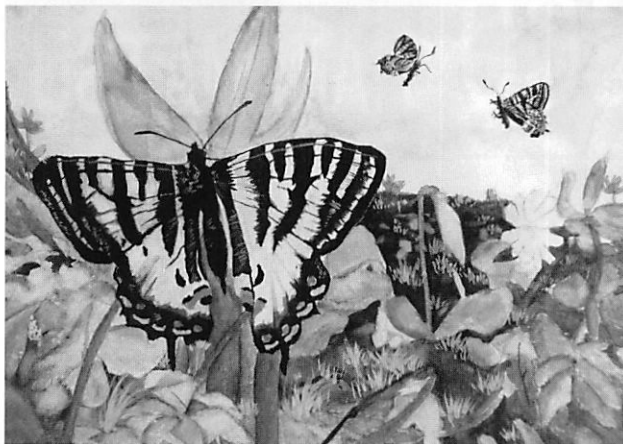
これからも描くことを通して、私たちのまちをもっと好きになっていきたいと思っています。

(受賞者代表挨拶より要旨抜粋)



## 浜松市長賞 「ギフチョウの舞う街 浜松」 北区引佐町

浜松市立白脇小学校6年 澤柳水希さん



「春の女神」と呼ばれるギフチョウ。浜松市の天然記念物に指定されており、県内のごく一部の限られた場所にのみ生息している。近年、里山の放棄や開発などにより、個体数が著しく減少しているという。いつか、多くのギフチョウが浜松市のあちらこちらで舞う日が来ることを願う。（作品コメントより）

## 「私のまちのたからもの」表彰式 35の小中学校から711点の応募

1月15日(日) 於：えんてつホール



浜松市長賞

笹川果音さん 澤柳水希さん



静岡県教育長賞

授与者：県教育委員会社会教育課  
課長代理 袴田祐之氏  
浜松市立東陽中学校3年 佐藤美晴さん

【主催者挨拶】

## 「町のよさを知ることが 平和を大切する心に」

浜松ユネスコ協会副会長 安藤隆敏 氏

「私のまちのたからもの展」は、地域の魅力に目を向け、長い歴史と伝統のもとで豊かに培われた地域の文化・自然遺産を伝えるための活動として、町のよさを知ることが平和を大切にする心につながるからです。

しかし、現実は大変に厳しいことがウクライナで示されています。毎日多くの命が奪われ、傷つけられ、ふるさと自体が壊されています。日本においても、一層、「平和」について考えなければなりません。

浜松市の天然記念物ギフチョウは、1990年に引佐町が制定したものです。制定するにあたり、実態調査が必要です。数年にわたり、この調査を行ったのが私たち、浜松ユネスコ協会のメンバーでした。その生態を調査し、まとめたことで「天然記念物」の制定につながりました。30数年前のことが、今の子供たちにつながっていると分かり、とても嬉しく思います。（要旨抜粋）



## 【来賓挨拶】

## 「一緒に歩んだという記憶は 自分のたからもの」

浜松市長代理 副市長 長田繁喜 氏

小中学生が地域の文化や自然に目を向けて、「たからもの」を見つけてくれたことに感謝したいです。どの作品もすばらしく、コメントにも心打たれました。

100年後まで伝統的な文化や自然を継承したいということで始められた活動ですが、それ以外に2つ目的があると思います。一つは「たからもの」を見付ける中で、浜松のすばらしさを確認し、誇りをもつことです。

もう一つは、見つけた「たからもの」を「自分のたからもの」にすることです。風景や行事、家族、友達、地域の人たちと一緒に歩んだということを記憶に留めてほしいです。これからの長い人生には、楽しいことやうれしいことがいっぱいあります。反面、辛いことや大変なこともあると思います。そんなとき、「自分のたからもの」を思い起こして、「自分は一人じゃない」と力強く乗り越えてほしいと思います。(要旨抜粋)



## 「地域を知り 将来の活躍を期待」

浜松市教育長 宮崎 正 氏

限られたスペースの中に描かれた「たからもの」の絵とコメントを拝見しました。すると、なぜ、これを「たからもの」にしたのかという作者の想いが伝わってきました。

日頃、何気なく存在する原風景には、地域の歴史や身近な人たちの温かさがあります。これらは浜松や湖西地域の魅力です。今後も、良いものを感じる心や感性を大切にしてほしいと思います。そして、素直に表す気持ちを一層磨いてください。

また、多くの友達の作品が展示されています。自分以外の人「たからもの」も知ってください。友達の「たからもの」を知ることは、自分らしさを一層素敵なものにしていくと思います。

大河ドラマでは、『どうする家康』が始まっています。浜松・湖西も大いに関わると思っています。浜松・湖西のことをもっともっと知って、大いに好きになってほしいと思います。そして、この地域で大いに活躍することを期待しています。(要旨抜粋)



## 「見え方や捉え方が新鮮」

衆議院議員 塩谷 立 氏

大人では気が付かない地域の「たからもの」を題材にした作品が多くありました。小中学生のみなさんの視点に驚きました。みなさんの歴史、文化、自然の見え方や捉え方が新鮮に感じました。浜松には、まだまだたくさんの「たからもの」があると実感しました。皆さんの素晴らしい感性を磨きながら大きく成長してもらいたいと思います。

世界はウクライナの戦争で大きな激動が走っています。地域のこと、日本のこと、世界のことを考える機会になればありがたいと思います。(要旨抜粋)



## 【審査講評】

## 「自分に語りかけてくる声を聞く」

浜松市在住の美術家 平賀卓也 氏

「市長賞 浜名用水取水口跡」初めて取り上げられた場所として新鮮さがありました。よく描いてくれたとうれしく思います。天竜川の治水の歴史は、浜松だけでなく日本の農業の歴史です。作品として取り上げてくれたことによって、食の文化や防災のありかたを考えるきっかけになると思います。画面の隅々まで作者の観察の目が届いて、荘厳で静かな佇まいの雰囲気は作品は伝えてくれています。

「市長賞 ギフチョウの舞う街 浜松」おそらく写真や図鑑でしか見ることのできないのでしょうか。この絶滅危惧種のギフチョウに興味を抱き、そこから環境との関係に触れたことで作者の興味の深さを感じます。丁寧に細かく描かれ、その美しさが作品から見てとれます。

写真を基にして描くことは悪いことではありません。しかし、どのような角度から風景や建物を捉えたら、自分の思いや考えが伝わるか画面の構想を考えることが大切です。静かに目を閉じて心のカーテンを開きます。そして、優しい気持ちになれたら、目の前のものが語りかけてくる声を聞くことができるでしょう。自分が感じたり、願ったりしたことを目の前に広がる未来というキャンバスに思いっきり描いてほしいと思います。（要旨抜粋）



## 第5回 科学教室 「郷土の自然史 天竜川と岩石」 ～防災や資源についても考えよう～

10月15日(土) 於：天竜川(西鹿島)



昨年度と同様、新型コロナウイルス感染予防のため、午前中のみ活動としました。また、過日の大雨の影響で大きめの岩石に河原が覆われていたり、10月半ばとは思えないような暑さだったりしたため、安全や健康にも十分に配慮して実施しました。

はじめに、採集する10種類の岩石について、成り立ちや特徴の説明を行いました。

- ①岩石の成り方は大きく3種類あること
- ②岩石がプレートのはたらきで運ばれて山地や山脈を形成すること
- ③天竜川の岩石は多くの支流から集まってくるため種類が豊富であること

その後、岩石を採集しました。子供たちは、見本と照らし合わせたり、スタッフに特徴を教えてもらったりしながら、真剣な眼差しで探していました。

最後に、「岩石を知ることを通して防災や資源についても考えてほしい」というメッセージが伝えられました。身近な岩石から始まった子供たちの学びが、より広く、より深く繋がっていくことを期待しています。(池内伸彰)

## 第6回 科学教室 「秋の自然観察 木の実探索」 ～本物を見て触れて 自然を知る～

11月3日(木) 於：佐鳴湖公園



私は、「シリブカガシ」を磨くとピカピカに輝くことを、今回の活動で初めて知りました。他にも、「シリブカガシ」の特徴は、堅果の先が深くへこんでいることです。

それと同じ仲間の「マテバシイ」は大きな堅果です。漢字では、「馬刀葉椎」と書くそうです。名前の由来は、「葉の形が細長い二枚貝のマテ貝(馬刀貝)に似ているから」、「待てばシイの実のように美味しくなるから」など、諸説を知ると興味も深まります。

また、深々と帽子をかぶったような姿の「スタジイ」、つぶらな小さな形

の「ツブラジイ」。その特徴を知ると「どんぐり」と一括りでは呼べません。子供たちは、自分で見つけた堅果・殻斗・葉のセットを大事そうに眺めて、集めた8種類の木の実の名前を確認し合っていました。

散策コースを一周し終わると、景色はなんだか始めとは違って、木々や草花の成長と力強さを感じました。佐鳴湖の自然に少し近づけたような気がします。(岡田佑季)

## 第7回 科学教室 「神秘的な星の世界をのぞこう」 ～感動体験は 科学への原動力～

12月17日(土)・24日(土) 於：浜松市天文台



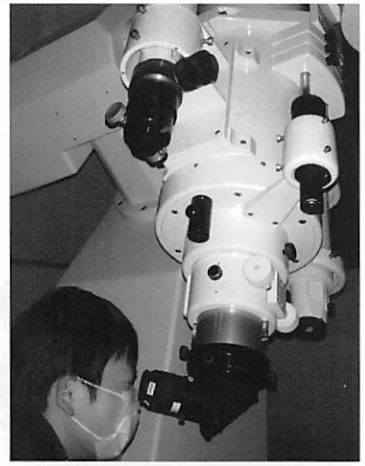
7つの一等星が輝く賑やかな冬の星空は、まだ東の低い空です。でも、今年は土星、木星、火星が煌めいています。惑星の観望も楽しめました。

大きな渦を巻いて輝くアンドロダ銀河の写真。見ただけで宇宙の神秘を感じます。このような写真は、長露光で撮影した写真を重ね合わせて鮮明にしたものです。直接、望遠鏡で見えるアンドロメダ銀河は、ボワツとした霧があるくらいです。ちょっ

とがっかりかもしれません。

しかし、私たちの銀河の隣の銀河から240万光年という想像できない時間をかけて地球に届いた光です。今、その光を見ているのです。天文台の望遠鏡を使っても、薄っすらとしか見えない天体はたくさんあります。でも、その天体に対する知識があれば、見えたときの感動は大きくなると思います。

子供たちが、星空から「美しさ」、「神秘さ」、「壮大さ」を感じ、この感動が将来の科学する力につながることを願っています。（阿部行俊）



## 第8回 科学教室 「電波の不思議 ラジオを作ろう」 ～子供たちの笑顔と頑張りがスタッフの励み～

1月28日(土) 於：浜松科学館



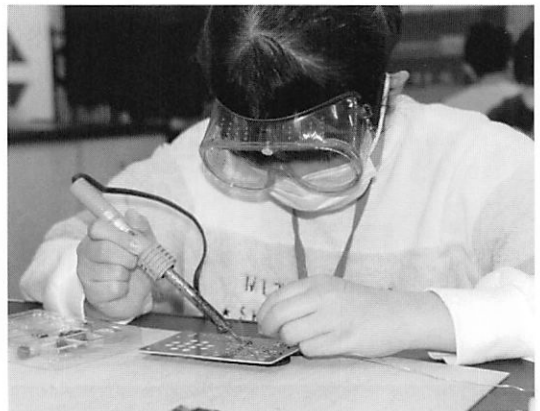
身近にあるように感じるラジオですが、持っていない家庭も多くあるようです。そのため、初めてラジオに触れた子供もいました。

子供たちは、「こんなに細かいパーツだ。」「早く作ってみたい。」と製作活動に興味津々でした。安全に活動ができ

るように、道具の扱い方の指導を行ってから作り始めました。

6年生は理科の授業で電気を学びます。電気が熱になる半田ごて。電気が音になるラジオ。授業とのつながりも考えることができました。

活動も終盤になると、子供たちは満面の笑顔で「ラジオから音楽が聞こえてきた。」と報告に来ます。その一方、音が出なく抵抗やコンデンサーの場所や向きを何度も確認する子もいます。子供たちの嬉しそうな顔、自分の力で課題を解決しようと頑張る姿に、スタッフも励まされました。今後も、子供たちのそういった姿が多く見られる科学教室であり続けたいです。（伊熊芳基）



内科・消化器科

**西脇医院** 院長 西脇雅子

中区和合町176-58 ☎ <053> 412-5355

西遠は「未来を拓く女性」を育てます。

伝統の中高一貫教育／地域唯一の女子教育／新しい課題探究型学習

入学相談は随時受け付けております。

パンフレットでは伝えられない学園の雰囲気是非御覧ください。



静岡県西遠女子学園 中学校・高等学校

TEL:053-461-0374 WEB:www.seien.ed.jp

## 第9回 科学教室 「記念樹を植えよう」

2月25日(土) 於：浜松科学館



大樹も「木の実」の発芽からはじまります。豊かな自然を育む森も「木の実」からはじまります。最後の科学教室は、記念樹として自分のお気に入りの木の実を選び、スケッチをして植木鉢に植えました。



## 2022年度 ユネスコ科学教室 閉講式

2月25日(土) 於：浜松科学館



### 【来賓挨拶】

## 平和を願う思いの深まりを期待

浜松市創造都市・文化振興課 生涯学習担当課長 鈴木一有 氏

ユネスコは、教育や科学、文化を通じて世界の平和に貢献するため作られた国際連合の組織です。浜松市として、皆さんの心に科学する心が育まれていくことを願っています。そのためには、現場に出かけて実物と触れ合うことが大切と考えています。

この1年間で、膨らませてきた科学に対する興味や関心を、今後も持ち続けてほしいと思います。これからの未来を担う皆さんの世界の人々の平和を願う思いが、今後ますます深まることを期待しています。

(要旨抜粋)



印刷のエキスパート  
**株式会社開明堂**  
 TEL <053> 471-6231(代) FAX 473-0778

遠州鉄道グループ  
**ホテルコンコルド浜松**

# 人との繋がりを大切にして自分づくり

浜松ユネスコ協会 副会長 安藤隆敏 氏

「子供たちに広く科学する心を育ててほしい」という願いから、小学生対象のユネスコ科学教室が生まれました。今年で34回目となり、修了生は4,012名となりました。

ウクライナでは、戦争により多くの死傷者が出ています。ウクライナの人々が育んできた歴史や文化、心までも破壊されています。使われている武器は、全て科学の産物です。今、話題になっているミサイルや気球などを含め、科学は使い方によって善にも悪にもなります。だからこそ、ユネスコ憲章前文の中に「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない。」と書かれています。修了証書に書かれている科学する人の心構えを今後の生活の中で発揮してほしいと思います。そして、人との繋がりを大切にして、より良い自分づくりを進めてください。（要旨抜粋）



## 第4回 親子公園探検隊(冬)

### ～冬鳥ミサゴの迫力に感嘆の声～

2月4日(土) 於：佐鳴湖公園

冬越しする生き物や野鳥を中心に観察をしました。メジロやシジュウカラなどの小鳥を観察した後、湖岸へ移動しました。晴れ渡った大空で数羽のミサゴがホバリングをしていました。突然、一羽のミサゴが足を前に突き出して、水の中にダイビングしました。大きな水しぶきが上がり、大きなボラを驚づかみにしたミサゴが舞い上がりました。この迫力あるミサゴの姿に「すごい！すごい！」と大歓声があがりました。

この様子を撮影していた地元のカメラマンの方から、連続撮影した写真を見せてもらいながら、ミサゴの特徴や知恵の話を知ることができました。ミサゴの足の裏側には刺状の突起があり、捕まえた魚を逃さないようになっています。空気抵抗を減らすため、魚の顔を前にして、足を前後にして運んで行きます。すばらしいミサゴの知恵に驚きと感心でいっぱいでした。

パンダガモとも呼ばれるミコアイサやカンムリカイツブリなど、可愛い水鳥も観察することができました。毎年観察できたカワセミに出会うことができなかったのは残念でしたが、充実した観察会となりました。（袴田正義）



## あなたも一緒に 会員募集

問い合わせ・申し込み  
事務局 三輪 宜弘  
■ 053-425-8643

## 会員動向 会員数 (2023.3.11現在)

賛助	法人	維持	理事
30	1	4	39
普通	学生	合計	
34	0	108	



※再生紙を使用しています。